



ともしび運動
ともに生きる福祉社会づくりをめざして

“KANAGAWA”

福祉タイムズ

2005 8 No.645

発行日 2005年（平成17年）8月15日

毎月1回15日発行

発行所 〒221-0844 横浜市神奈川区沢渡4-2

社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会

TEL045-311-1423 FAX045-312-6302

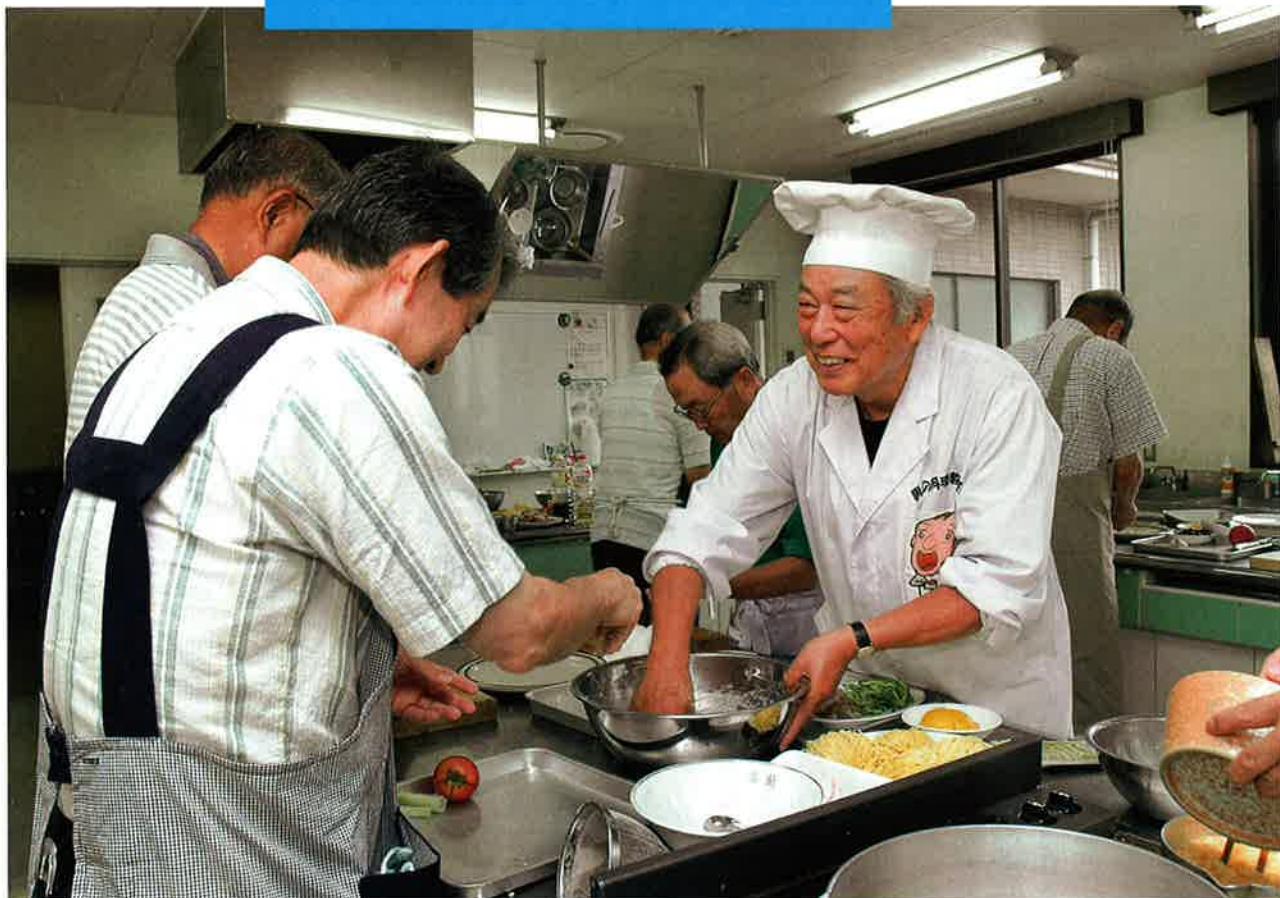
<http://www.progress.co.jp/members/jinsyakyo/>

編集発行人 米倉孝治

定価 100円（税・郵送料込）

印刷所 株式会社 神奈川機関紙印刷所

昭和27年1月30日 第三種郵便物認可



「お袋の味が原点」鎌倉市在住の画家、蓼沼誠一さんは「男の料理教室」を主宰し20年になる。毎年、市の講座で高齢者に料理作りを指導しているが、終了後も習いたいという強い要望で月一回の料理教室を開催。今では10クラスになり、60歳～84歳までの男性200人余りが参加する。料理を通じ友だちづくりも大切な目的で、独居老人誕生会の料理づくりボランティアとしても活躍する。「子どもの頃に覚えたお袋の味は、食文化の自然な姿。それが自然や人を思いやる事に繋がると思う」と話す。（写真・文 菊地 信夫）

目次.....CONTENTS

- 運営適正化委員会の概要と本年度の計画………2・3
- 第四回かながわ老人福祉研究大会開催される………4
- 充実した討議で終えた障害者デイサービスセンター会議………5
- 認知症高齢者GHの外部評価新規分公表………6
- 長寿社会開発センターいきいきはつらつと連載・サービスを生む・育てる(5)………7
- 10・11

子どもが増えた理由は新しいマンションの林立のこと。しかし、土曜日曜に子どもが遊ぶ姿はまさしくこの町で育ち、そこそこの年齢になっているが、こんなにも子どもが多くいると思つたことはない。

子どもが増えた理由は新しいマンションの林立のこと。しかし、土曜日曜に子どもが遊ぶ姿はまさしくこの町で育ち、そこそこの年齢になっているが、こんなにも子どもが多くいると思つたことはない。

わたしの通勤路は毎朝、学生の通学路にない。前からは私立の中学校・高校生が、同じ方向を赤、黒、黄、ピンクなど色とりどりのランドセルが我が物顔で狭い歩道を横に並ぶ。そして、そのランドセルは歩道を右に行ったり、左に行つたり、ものすごいスピードで前進したり、急に反転したりして、私たちに戸惑わせる。

あんじる

かながわ福祉サービス運営適正化委員会の概要と本年度の計画

平成十二年の社会福祉法改正にともない制度化された運営適正化委員会もすでに五年を経過しました。今年度はすでに介護保険法も改正され、障害者自立支援法の創設が国会で審議されています。

これらの改正法の中でも高齢者や障害者の権利を護る仕組みの充実が見込まれておりますが、運営適正化委員会は今後も利用者の苦情を解決するとともに、福祉サービスの向上をはかっていく上で大きな役割を果たしていくことになります。今回は、平成十六年度の運営適正化委員会の実施概要と平成十七年度の取り組み概要をお伝えします。

(表1) 利用者・苦情受付件数の年度別推移

区分	高齢者	身体障害者	知的障害者	精神障害者	児童	その他	合計
平成12年度	22	9	4	0	1	0	36
平成13年度	28	9	15	13	3	5	73
平成14年度	29	11	14	15	9	3	81
平成15年度	18	21	23	10	10	3	85
平成16年度	20	17	18	6	11	3	75
合計	117	67	74	44	34	14	350

* 平成12年度は、平成12年10月～同13年3月の6ヶ月間の件数

表1は、事業が開始された平成十二年度から平成十六年度までの五年間に申し出のあつた苦情受付の利用者区分を表したものですが、特徴として、障害者からの苦情が増加傾向にあることと、児童関係の苦情が増加していることが挙げられます。苦情申出者の推移を見たものが

平成十六年度の取扱いの概要

表2ですが、家族からの申し出が最も多く、その傾向は事業開始当初から変化はないようと思われます。一方で、利用者や本人・家族以外の方の申し出が毎年度一定程度あることも注目されます。

案件が生じた事業の所在地を表したもののが表3です。なお、平成十二年の事業開始後、横須賀市、相模原市が中核市となつたため、表は平成十六年度分だけを表しています。

2 運営監視事業の概要

運営適正化委員会には、「地域福祉権利擁護事業」が適切に実施されているかを監視する機能があります。そこで平成十六年度は、この事業の実施主体である神奈川県社協ならびに横浜、川崎両市社協に対する実施状況調査及び他の五市區町村社協に対する現地調査を実施しました。

これらの結果を踏まえ、「地域福祉権利擁護事業の適正な運営に関する提言」をとりまとめ、県内の各社協及び神奈川県、厚生労働省に提出し、同事業の適正な運営と今後の施策等に役立てていただけよう要請を行いました。

(1) 地域福祉権利擁護事業の適正な運営に関する提言

- 実施社会福祉協議会に対する提言
- 地域福祉権利擁護事業の適正な運営に関する提言

3 性別による提言

- 実施社会福祉協議会に対する提言
- 地域福祉権利擁護事業の適正な運営に関する提言
- 性別による提言

- 実施社会福祉協議会に対する提言
- 地域福祉権利擁護事業の適正な運営に関する提言
- 性別による提言

(表2) 申出者別年度推移

区分	利用者	家族	その他	合計
平成12年度	11	21	4	36
平成13年度	29	31	13	73
平成14年度	28	39	14	81
平成15年度	30	44	11	85
平成16年度	26	35	14	75
合計	124	170	56	350

(表3) 平成16年度事業者所在地別

区分	県域	横浜市	川崎市	横須賀市	相模原市	その他	合計
高齢者	6	8	2	1	2	1	20
障害者	18	12	7		3	1	41
児童	7	3			1		11
その他		2				1	3
合計	31	25	9	1	6	3	75
(%)	(41.3%)	(33.3%)	(12%)	(1.3%)	(8%)	(4%)	(100%)

や苦情解決責任者、第三者委員の研修会を実施したほか、平成十六年度から新たに障害者関係等の三団体と研修会を共催いたしました。関係団体の協力により、多くの方に参加していただきましたが、委員会主催の第三者委員に対する研修では、施設等関係者の参加者が少なく、今後の課題となっています。

平成十七年度の事業予定

今年度も、当委員会としては福

- (1) 書面調査（七月～八月）
障害者、高齢者の権利擁護を目的とした当該事業の利用者の増加に伴って、事業のより適正な運営の確保が求められています。
そこで事業の実施体制等全体像を把握すべく、次の調査を実施する予定です。
- 当該事業を事業実施主体から受託している市区町村社協等、全五

社サービスの苦情相談にあたり、関係者や事業者等の理解を得ながら、公正中立な立場で、その解決にあたるとともに、社会福祉法に定められた制度の趣旨を生かし、本年度も次のような取り組みをしてまいります。

1 苦情解決体制整備状況調査

（七月～八月）

社会福祉法では福祉サービスの苦情について、事業者自身による解消体制の整備を推奨しております。苦情受付窓口や第三者委員の設置を求めております。その実情把握を行うため、事業者のご協力のもと、全般的な苦情解決体制の整備状況を調査いたします。そして、

今後の当委員会における研修事業、啓発事業の企画に活かしてまいりたいと考えています。

2 地域福祉権利擁護事業の運営監視調査

今後、当委員会における研修事業、啓発事業の企画に活かしてまいりたいと考えています。

そこで事業の実施体制等全体像を把握すべく、次の調査を実施する予定です。

（1）書面調査（七月～八月）

〈国及び神奈川県に対する提言〉

県内の地域福祉権利擁護事業の利用契約者数は900件を越え、今後も利用契約の増加が予測されます。

本委員会は、平成16年度に県内で発生した不祥事案件の当該受託社協及び5つの受託社協及び3つの実施社協に対する実施状況調査を行った結果を踏まえ、実施社協及び受託社協に対して、当該事業の適正な運営に関する、提言をしているところであります。

この提言で示した内容を実現し、本事業の充実と発展を図っていく上で、各実施社協及び受託社協に対する予算の増額措置がぜひとも必要であることをご理解いただき、国及び県におかれましては、当該社協の財政基盤の充実にご尽力いただきますようお願いいたします。

十四事業所に対し、事業実施体制の現状等について調査を行います。

（2）現地調査（八月～十一月）

例年通り、県、横浜、川崎の実施三社協に対する書面及び現地調査のほか、その三社協から事業を受託している六市区町村社協等の事業実施の状況調査を行います。

3 苦情解決研修

従来より苦情解決の研修につきましては、当委員会主催で横浜市内を中心としておりました。が、関係団体との共催による実施や県央地域等での開催を行うなど、参加しやすい研修を次のとおり予定しております。できるだけ多くの方々のご参加をお待ちしております。

なお、今年度に予定している具体的な研修は、次の二点になります。

① 苦情解決受付担当者研修

②

社会福祉を取り巻く大きな変化の中、苦情解決事業や地域福祉権利擁護事業を含め、高齢者や障害者等の福祉サービス利用者の権利擁護について、今後どのように具体的に取り組んで行くべきか、多くの方々の参加を得て議論していくために、当委員会ではシンポジウムの開催を計画しており、今後、本紙等を通じてお知らせいたしますので、ご参加いただきたいと思います。

（運営適正化委員会）

苦情解決責任者および第三者委員研修。（研修内容は9面information）を参照してください。

また、研修会等を企画し、共催を希望される場合は、当委員会事務局までご連絡ください。研修講師や資料等について相談に応じます。

4 シンポジウム

第四回かながわ老人福祉研究大会 開催される

去る七月十五日、パシフィコ横浜・会議センターにおいて、本会老人福祉施設協議会主催の「第四回かながわ老人福祉研究大会」が開催されました。

当日は、施設従事者や県下介護

福祉士養成校（十一校）の学生、介護機器等の企業関係者など千八百人余りの参加者があり、七会場で認知症ケア、在宅支援・介護予防など、県内の特別養護老人ホーム等で取り組まれている研究や、様々な事例が発表された他、厚生労働省老健局振興課長の香取照幸

氏より「介護保険制度の改正について」と題した記念講演が行われました。また同会場において、養成校の各施設の先駆的な取り組み等、七会場に分かれて発表いたしました。

（社会福祉事業課）

総施設長の竹田一雄氏は、「本大

会も四回目となり、回を重ねるご

とに充実し、県全体のサービスの

向上等、レベルアップが図られて

きています。また介護

保険制度の改正時期にあって、

研究発表内容も多様となり、現場

職員の専門性が發揮できる場であ

る、ということを特に誇りにして

欲しいと思います。今後は一般市

民や地域の団体などの参画も得

て、老人福祉に関する様々な取り

組みを紹介することで、理解の広

がりを得たいと思います。」と語っ

ていただきました。

また介護福祉士養成校連絡協議

会事務局の小林根先生は、「学校

の視点からは、就職活動の時期を

前に様々な施設の情報が入り、参

加することにとても大きな意義を

感じています。また学生として

も、相談会や各施設の先駆的な事

例を伺い知ることができます」と話

されました。

（社会福祉事業課）

障害者のための防災マニアルが作成されました

障害者本人で構成するNPO法人神奈川県障害者自立生活支援センター（通称KILC（キルク））では、この度神奈川県の委託を受け、障害者のための防災マニュアルを発行しました。

本書は阪神・淡路大震災を契機にして取り寄せた全国の防災マニュアルを参考に、障害当事者の目線で使えるマニュアルを企画したもので、車椅子使用者のみならず、聴覚や視覚、内部障害の方等も視野に入れたことが特徴です。また作成にあたっては、神奈川県内及び阪神・淡路大震災を経験した京阪神地区の団体調査とともに、自治体の防災訓練へ参加するなどの体験を踏まえました。

そもそも障害を持つ方にとっては、災害が起きたとき、果たして無事に逃げることができるのか、避難体制は整っているのか、また避難後の医療ケアが継続して確保されるのか等、災害時及び災害後

の不安に限りがありません。ま

た、日頃から近隣住民や関係機関

などの繋がりが弱い場合、自らが

行動しにくい障害者は、いざとい

うときに誰も気付いてくれない事

態に陥る可能性があり、孤立しがちな状況にあります。

そのため本書は、自らがどのよ

うにして行動するか、また日頃か

らどのような準備をしておくか、

といった視点で構成され、今現在、

自らが可能と思える対処方法を自

己点検できるよう「チェックリスト」が用意されています。

さらに本書では、このリスト作

成の結果が、関係機関に当事者の

より具体的なニーズを伝える機会

となることも期待されています。

なお、本書は八月下旬から販売

（価格未定）を予定しており、詳細

などのお問合せは、県内に三ヵ所

ある神奈川県障害者自立生活支援

センター（厚木・平塚・南足柄）南足

柄は平成十七年六月一日に開所）

で受け付けています。（企画課）

◆代表問合せ先 あしがら自立生

活センター

☎ 0465-71-0501

FAX 0465-71-0502

e-mail : kilc@neweb.ne.jp



各施設の先駆的な取り組み等、七会場に分かれて発表いたしました

（社会福祉事業課）



（社会福祉事業課）

去る七月二十三・二十四日の二日間、県社会福祉会館において「第三回関東障害児者デイサービスセンター会議」が、関東ブロック内の関係施設から約百六十名の参加者により開催されました。

この会議は、障害系デイサービス事業所間の連携や連絡が取りにくい状況にあることから、実践交流の機会を設定することで職員の資質とサービスの質の向上、そして事業の持つ意義を明らかにする事を目的に、三年前から実施しております。

今年度は、「自立支援法が目指す社会福祉基礎構造改革の内容を、包括的構造的に学び、今後の障害児者の地域生活の方向性をデイサービス事業の成果との関連の中で明らかにする」ことを主要のテーマとして、まず、田園調布学園大学小野敏明助教授の基調講演による問題提起から始まりました。次に分野別分科会（知的、身体、精神、児童）での実践報告による課題提起と課題別の分科会（四分科会）を行い、そして分科会の総括討議を経て、全体会への報告という盛りだくさんの内容となり、分科会の討議時間は六時間にも及びました。

（社会福祉事業課）

去る七月二十三・二十四日の二日間、県社会福祉会館において「第三回関東障害児者デイサービスセンター会議」が、関東ブロック内の関係施設から約百六十名の参加者により開催されました。

この会議は、障害系デイサービス事業所間の連携や連絡が取りにくい状況にあることから、実践交流の機会を設定することで職員の資質とサービスの質の向上、そして事業の持つ意義を明らかにする事を目的に、三年前から実施しております。

充実した討議で終えた障害児者デイサービスセンター会議

二日目の全体会の最後には、それぞれの分科会からの報告を踏まえ、主催事務局から提案された「関東会議アピール」が拍手を持て承認され、参加者全員が今回の会議の成果を十分に感じることができました。

アピールの内容は、今後の実践の方向性として、①社会参加の視点の重要性、②利用者自身の自己実現を援助する生活支援の視点の重要性、③専門領域を越えた地域単位でのネットワーク形成、④個別ケアを原点としたソーシャルワーカーの重要性、の四点を確認いたしました。

最後に、実行委員長の（福島県央福祉会相模原市立上九沢デイサービスセンター）の海老沢祐次所長は、「デイサービスという事業形態に限定しながらも、知的、身体、精神の三障害に加え、今回は、児童分野も含めて集めたことに意義の重さを感じます。そして今大会で得られた人的ネットワークを、事業所間の連携として、そして地域

読

者

の
声

ー病院で働いてみてー
私は以前、大きな病院の相談室で、相談員として働いていました。地域の中核的な病院だったのです。毎日多くの患者さんが来られていましたが、私は大学で福祉を学んでいたため、勤務1年目から相談室に配属になりました。

救命センターも付属していたので、脳疾病やその他の疾病で急に障害を負うことになってしまったなど、入院生活を続ける上で経済面や退院後の生活面での心配が生じてきて不安感を持つたり、混乱される方も多い、そのようなな気持ちを持つ方が相談室には来られていきました。もちろん様々な知識や技術を持って相談に乗ることは言えますでもないことです。まだ

まだ未熟な対応だったため私はお礼を受け取るには随分ためらわれましたが、「相談していく中であなたの笑顔に励まされました。今後も相談員としてがんばって欲しい」と言われ、私は逆に、その言葉に励されました。

その後は病院の中で相談員とは違う業務もしていましたが、病院を離れた今でも忘れることが出来ないことです。

私はまたいつか福祉に携われるような仕事をつければと考えていますが、あの女性から頂いた言葉を大切にしていきたいと思っています。

（岩田敬子）

▶投稿をお寄せください◀

「福祉について思うこと」をテーマにした投稿をお待ちしています。他のテーマや本紙内容へのご意見ご感想も結構です。

分量は700字程度。
匿名でも結構です。



郵送：〒221-0844
横浜市神奈川区沢渡4-2
FAX：045-312-6302
Mail：kikaku@jinsyakyo.or.jp
いずれも「県社協企画課タイムズ係」と明記のこと

そんな日々の中である女性が相談室に来られました。母親が脳梗塞で入院していましたが、当院での治療は終了したため、次の病院

県社協のひろば

認知症高齢者GHの外部評価新規分公表

本会では、平成十六年度第二期分として実施した認知症高齢者グループホーム（以下、GH）十四事業所の外部評価結果を確定しました。

外部評価はGH全体のサービス水準の維持・向上を目的にしており、個々のGHが事業の実施を通して、自らのサービスの特徴や工夫を要する点に気づき、よりよいケアの実践に活かされることが期待されています。

No.	受審事業所	所在地
1	フルハウス六角橋	神奈川区
2	グループホーム パティオつくいけ	旭 区
3	グリーンペペ	金 沢 区
4	リングリング	金 沢 区
5	グループホームウェルケア	港 北 区
6	高齢者グループホーム 横浜ゆうゆう	都 筑 区
7	梨雲ハウス平戸	戸 塚 区
8	グループホーム やすらぎ	泉 区
9	グループホーム はな畠	平 塚 市
10	ミモザ平塚南原	平 塚 市
11	コムスンのほほえみ藤沢	藤 沢 市
12	グループホームはなもも	逗 子 市
13	街角の家・南林間	大 和 市
14	グループホーム 葉山の里	葉 山 町

図1 WAM-NETでの評価結果閲覧の手順

- ①WAM-NETトップページから【開示情報】をクリック
- ②【認知症グループホームの評価】をクリック
- ③地図の中の【関東・甲信越】をクリック
- ④【神奈川県のすべての評価結果を見る】をクリック
- ⑤評価結果を閲覧したいGH名をクリック→評価結果が表示されます。

○WAM-NET URL=<http://www.wam.go.jp/>

(企画課)

なお今回の外部評価結果は、八月下旬以降、WAM-NETや本会ホームページ等を通じて公表する予定です。ぜひ身近な地域を中心でGHの評価結果をご覧ください(評価結果の閲覧手順は図1参照)。

さらに本会では本年度に約八十カ所のGHの外部評価を実施する予定です。引き続き外部評価を通して、GHのサービスの質の向上への取り組みを支援してまいります。

Harmony Meeting'05

福祉施設等就職相談会のお知らせ

主に来春採用予定の福祉施設等の人事担当者と、福祉の職場への就職を希望する方との直接面談の機会です

【日 時】11月25日（金）13時30分～18時（最終入場は17時30分）

【会 場】横浜市文化体育館（JR関内駅下車 徒歩5分）

【求人施設】110施設程度を予定

※参加を希望する施設は、9月30日（金）までにお申し込みください。

【申込み先】かながわ福祉人材研修センター 福祉人材課
☎045-311-1428

《お仕事をお探しの求職の方へ》

事前申込みは不要です。直接会場へお越しください（参加費無料・お車でのご来場はご遠慮ください）。参加者カードは、10月以降本会ホームページからダウンロードできます（事前に用意されることをお勧めします）。<http://www.progress.co.jp/members/jinsyakyo/>






自分に使いこなせるのかな!?

～パソコンを使った生きがいづくり・仲間づくり支援～

高齢者のパソコンに対する関心は高まっており、インターネットや電子メールを駆使して、情報収集や新たな仲間づくりも盛んに行われています。しかし一方で、関心はありながらも馴染めないでいる方も多いです。自宅に居ながら様々な情報を得られ、仲間づくりができるパソコンこそ高齢者のための道具だといわれますが、高齢者の本音はどうなのでしょうか。

決して、パソコンやインターネットへの理解がないわけではありません。当センターが実施した高齢者向けパソコン講習会の受講生のうち、これまでにパソコンやインターネットを使ったことがない人からも、「価値観が広がり世界が身近に感じる」「日本のみならず、世界中につながり、隣人との距離がすごく近づいたり、様々な情報をキャッチできる」「日常生活の相談役のような存在」という声があがっているように、生活の中に取り入れることを肯定的に考えているようです。

受講動機を見ると、「これから購入しようと考えているので技術を修得したい」と言う方や、「いつも子どもにセッティングをしてもらっているので、自分で基本的なことを覚えたい」という目的がある方もおられます。「退職をして時間ができ、何かやってみたい」「家庭で家族が取り組んでいる姿を見て、いつかは自分でもやってみたいと思って」「友人からパソコンを覚えると世界観が広がると聞いたので、果たして自分で使いこなせるものか知りたいので」という方もおられます。

そもそも仕事で使っていた人以外は、パソコンに触れる機会はあまりあるとは言えません。

果たして自分にできるのだろうかと、躊躇、戸惑いを感じるのも当然です。冒頭のパソコン、インターネットに対するイメージでも「何か近づき難い機械」と回答している方もおり、恐らく多くの方は、関心はあっても同様の気持ちをもっているのではないでしょうか。

経験者でも「用語が理解できないので、繰り返し同じ失敗をしてしまう」「教えてもらったことを忘れて苦労する」といった体験から、継続して使うことを半ばあきらめかけているようです。

* * *

高齢者にとって、パソコンは日々の生活をよりいきいきと豊かにしてくれる大きな道具の一つであることに間違いはありません。

当然、操作の煩雑さなど、道具としてのあり方の問題もありますが、まずは自分で使えるものかを確かめるために「試しに触れることができる機会があること」。そして講座を修了した方や経験者にとって「いつでも気軽に相談ができる場が身近にあること」が、パソコンを活用した生きがいづくりや仲間づくりの支援をしていくためには必要なようです。

センターからのお知らせ
シニアフェスタ2005参加者募集

日頃のスポーツ活動の成果を発表する場として「シニアフェスタ2005」を開催しますので、参加者を募集いたします。

【日程】平成十七年十一月二日（水）～三十日（水）

【会場】神奈川県立体育センター
他六会場

【種目】卓球、テニス、ソフトテニス、ソフトボール、ゲートボーラー、ペタンク、弓道、剣道、グラウンド・ゴルフ、太極拳、ソフトバレーボール、サッカー、ダンススポーツ

【参加資格】県内在住で、平成十八年三月三十一日をもって満五十九歳以上（昭和二十一年四月一日以前に生まれた方）

【募集期間】平成十七年八月一日（月）～三十一日（水）当日消印有効

※指定の参加申込用紙にてお申し込みください

このページに関するお問い合わせ
かなかがわ長寿社会開発センター
URL 045045-312311-63024
E-mail tyouju@jinskyaku.or.jp
http://www.nenrin.or.jp/kanagawa

今月の福祉資料室



「本のあすきの書」

子どもが育つ魔法の言葉
ドロシー・ロー・ノルト／
レイチャル・ハリス 著

(横濱市立吉岡保育園 園長
大塚 哲朗) 今ほど子育てが難しい時代はないような気がします。物の豊かさの一方で、親の余裕のなさの問題が大きいように思われてなりません。

『子は親の鏡』とは昔から日本でも言われている言葉ですが、本書は、かつて著者が同じ題で詩として発表したものに、一つ一つ具体例を織り交ぜながら解説したもので、子育てに携わる大人にぜひ薦めたい一冊です。読んだあなたは子どもへの関わりの重要さに改めて気づかされ、さらにちょっぴり優しくなった自分に気づくことでしょう。そしてこの詩を紙に書いてトイレに貼っておこうと思うかもしれません。



1999年4月刊、PHP研究所
定価1,575円(税込)

「福祉資料室」をご利用ください！

閲覧室のほか、文献検索、利用相談等のサービスを行っています。

- ◆利用時間：月～金(第3金曜、祝日、年末年始等を除く)の9時～17時
- ◆問合せ：☎ 045-311-8865
FAX 045-313-9341
- ◆インターネットでの資料検索
<http://www.progress.co.jp/members/jinskyakyo/tosyo/>

~「新着情報コーナー」ができました。ぜひご利用ください！~

- ★個人情報の保護と活用の手引き／医療・介護版（喜多紘一、法研）
- ★高齢者の心理がわかるQ&A／ほんとうの高齢者を知るための、66の疑問（井上勝也、中央法規）
- ★改訂2版 社会福祉法人会計基準Q&A SPARTI 総論篇（全国社会福祉施設経営者協議会、全社協）
- ★ケアプランに活かす－CFの視点（諫訪さゆり、大瀧清作、日総研）
- ★「コスマスの家」の取り組みを紹介。（本敏貢、自治体研究社）
- ★まちづくりへ～主婦たちがつくったNPO「コスマスの家」（渡辺ひろみ、山本敏貢、自治体研究社）
- ★ボランティア活動から発展し、現在介護保険事業の他多彩な活動を展開する「コスマスの家」の取り組みを紹介。（本敏貢、自治体研究社）

図書

読んでみよう！

★デイサービスから

まちづくりへ～主婦たちがつくったNPO「コスマスの家」（渡辺ひろみ、山本敏貢、自治体研究社）

- ★よくわかる障害者施策～2005年版（障害者施策研究会、中央法規）
- ★福祉のための法学（第2版）～社会福祉の実践と法の理念（野崎和義、ミネルヴァ書房）
- ★正々堂々がんばらない介護（野原すみれ、海と月社）
- ★福祉施設におけるリスクマネジャーの実践（全社協）

資料

- ★価値あり！ ★ホームレスの自立を支援する相談員の手引き（日本社会福祉士会）

- ★自閉症者に対する意識調査～一般社会の人たちに対する3000人アンケート（自閉症協会）
- ★高齢者介護におけるターミナルケア調査研究事業報告（日本介護支援協会）
- ★横浜市における小規模・多機能サービス拠点のあり方～委員会のまとめ（同検討委員会）
- ★横浜市立吉岡保育園創立50周年記念誌（横浜市立吉岡保育園）
- ★20周年記念誌～させき（N横浜マック）
- ★ケアマネジャーのための地域生活を支える社会資源活用ハンドブック～包括的な支援のために（東京都介護支援専門員支援会議）
- ★横浜市福祉調整委員会10周年記念誌（横浜市福祉局福祉相談調整課）
- ★市町村社会福祉協議会による法人後見に関する研究委員会報告書（岐阜県社協）
- ★20周年記念誌～させき（N横浜マック）
- ★ケアマネジャーのための地域生活を支える社会資源活用ハンドブック～包括的な支援のために（東京都介護支援専門員支援会議）
- ★横浜市福祉調整委員会10周年記念誌（横浜市福祉局福祉相談調整課）

今月のいちおしクリック！

「日本医師会」のホームページをご紹介します

健康的な生活を送ることは誰もが思う願いです。日本医師会が運営するこのサイトは、人々の健康増進ためのアドバイスや子ども向けのサイトのほか、社会保障や健康保険、介護保険の解説、WEB上からできる病気チェックなどお役に立つ情報が満載です。



<http://www.med.or.jp/>

載 サービスを生む・育てる(5)

施設入所者への「食」のサービスとマネジメント

介護保険制度の改正を受けて、介護施設において個々の入所者の栄養改善計画（栄養ケアマネジメント）を作成し、栄養・食事指導をすることになりました。これは、入所者に多い「低栄養」状態のお年寄りを減らすというものです。

低栄養改善の取り組みとして、その定義づけをし、ケアマネジメントに組み込んで実践を展開している特別養護老人ホームふれあいの森（茅ヶ崎市）を訪ね、お話を伺いました。

「栄養ケアマネジメントの背景」

食事の基本的な構成要素であるタンパク質の摂取は、要介護状態にある入所者にとって栄養改善につながるものとされ、改正介護保険において指摘されました。特に「血清アルブミン」（動植物の細胞・体液中に含まれる一群の可溶性タンパク質の総称）の摂取が少ないと低栄養状態が多いとされており、高齢期に不足しがちな肉や魚、卵や牛乳など動物性タンパク質をたくさん含む食品を十分に食べる事が、介護の重度化予防につながるとしています。

これまでの低栄養改善の取り組みは、制度的な定義づけやマネジメントの仕組みがなく、そのため厚生労働省は、平成十六年度に栄養・食事サービスのマネジメントのあり方を検討するため、「施設

及び居宅高齢者に対する栄養・食事サービスのマネジメントに関する研究会」を、有限責任中間法人「日本健康・栄養システム学会」に設置し、検討を行つてきました。

「管理栄養士から見た利用者の状態」

管理栄養士の田中和美さんに、栄養ケアマネジメントの実践として、施設で取り組んできた成果を伺いました。

「今までの食事に対する取り組みは、盛り付けの演出などにこだわりがありました。それは食べる人間の側から見ていかつたのではないか」と田中さんは言いました。

「栄養ケアマネジメントに向けた取り組みの効果」

その結果、経費面では半年で五十五万円が削減され、管理栄養士として栄養ケアマネジメントに取り組む時間が三十一%に増加し、時間外労働も大幅に解消されたほか、栄養アセスメントの実施による特別加算食を導入したことで、

ち、平成十五年の職員採用時から、すぐに栄養ケアマネジメントの実践に取りかかりました。

今まで栄養士の業務としては、

施設利用者（入所者五十四名、短期入所十六名）が食事をした後の体重や食事量などの把握をしていませんでした。そこで調査を行つてみると利用者の三割が低栄養状態にあり、かつ全体的にも低体重で、病気がちななどの不安定な症状があることが分かりました。

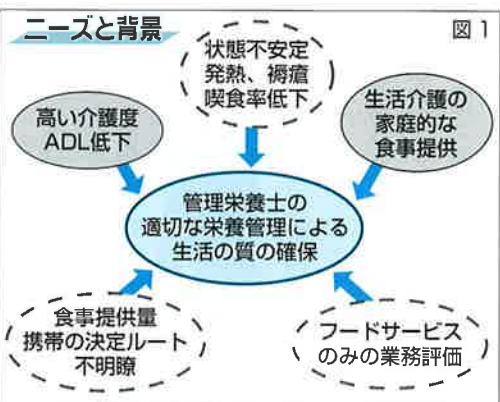
そこで管理栄養士から見た生活介護のニーズと背景を探り、適切な栄養管理の下で利用者の生活の質を確保することに取り組むことにしました。（図1）

まず、低栄養利用者のスクリーニングを行い、その後、ケア記録から食事調査や身体測定などの栄養アセスメントを実施に際して問題点を解決するため、フードサービス部門は副担当が事務業務の一部を担当する、帳票類をまとめ簡素化する調理品の工夫を行うなどの改善を図ったほか、管理栄養士は、他の業種と連携を取りチームケアを行う必要があることを施設全体に呼びかけ、施設内のシステム化を図る必要性を訴えていくことにしました。

これまでの低栄養改善の取り組みは、制度的な定義づけやマネジメントの仕組みがなく、そのため厚生労働省は、平成十六年度に栄養・食事サービスのマネジメントのあり方を検討するため、「施設

に栄養ケアプランを作成しました。しかし、この作業は、制度上求められておらず、施設管理の観点からは必要のない作業であるため、次に、管理栄養士の勤務実態の把握に努めました。

そこで分かったことは、業務時間の三分の一が発注在庫管理や献立作成で占め、栄養ケアに関する業務は全体の三%にしか過ぎないということでした。そのため、マネジメント実施に際して問題点を



ひと・ネットワーク

154

「病院近くの我が家のような」

よこはまファミリーハウス
代表 佐伯 トシコ



"ファミリーハウス"という施設を聞いた事がありますか? 子どもが困難な病気になった時、遠方の医療機関での入院・治療が必要となり、家族にとっては精神的・経済的に想像以上の負担がかかってまいります。私たちは平成11年1月より、県立こども医療センターの近くに、滞在施設(ファミリーハウス)1施設3部屋を提供し、「芹が谷にじのいえ」の名称で活動を始め、平成16年3月にはシーサイドライン野島公園駅前と、JR横浜線小机駅前に各ワンルームを増設し、医療機関の相談室と連携して「よこはまファミリーハウス」の名称でご家族を受け入れております。

利用料は一泊1500円で、他に家族(大人)は500円、お子さんは無料で、備品や消耗品は揃っております。ハウスでは料理・洗濯など、ごく普通の家庭と変わりません。また、同じ境遇にあるご家族同士の情報交換の場ともなっており、お互いに支え合いながら困難な病気や境遇に向き合い、乗り越えていらっしゃいます。

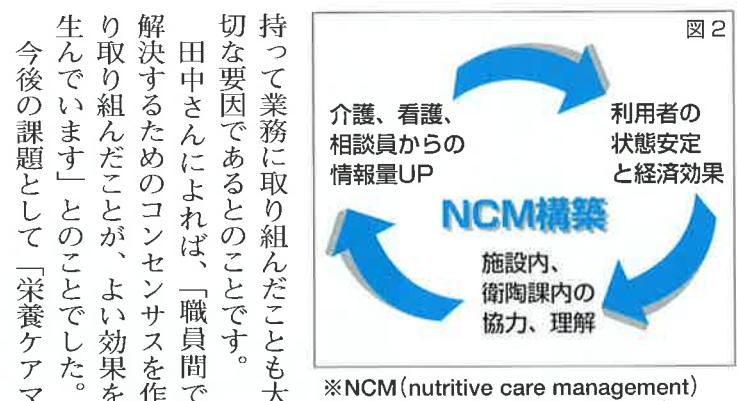
利用者は全国各地や海外からもあり、過去1年間の利用者数は延べ1800名を越え常に満室状態となっており、ニーズにあった滞在施設を準備し、ご家族の負担や不安が軽減されることを願っております。

昨年は神奈川地域社会事業賞を受賞し、より多方面から活動の理解をいただきました。県からも施設開設のため、こども医療センター近隣の県有地の提供を受けることになりました。現在は開設準備委員会を設立し、資金集めに取り組んでいるところで、新聞、テレビ等で募金を呼びかけており、個人の支援は広まっております。しかし、海外のように企業からの支援はなかなか得られておりません。

今後は、企業等の福祉分野への地域貢献として、資金援助等に目を向けていただけるよう、ご理解を戴きければと願っております。

URL : <http://www5f.biglobe.ne.jp/~yokohama-famiry>

一ヶ月あたり四十万円の収入になるなど大きな成果を生みました。また利用者の緊急対応ケースがほとんどなくなり、体重も微増するなど身体面の安定が図られました。日常介護の中では、利用者の体調が不安定になるような変化があつた場合、介護職員からその状態を見て欲しいと声がかかることがあります。(図2)



ネジメントに取り組むにあたり、改めて業務マニュアルの見直しや研修に取り組む必要性を感じます。また、より定着させるために他職種とのバランスを保ち、チムワークを心がけることも忘れてはなりません」と田中さんは結んでくださいました。

持つて業務に取り組んだことも大切な要因であるとのことです。

田中さんによれば、「職員間で解決するためのコンセンサスを作り取り組んだことが、よい効果を生んでいます」とのことでした。

今後の課題として「栄養ケアマネジメントに取り組むにあたり、改めて業務マニュアルの見直しや研修に取り組む必要性を感じます。また、より定着させるために他職種とのバランスを保ち、チムワークを心がけることも忘れてはなりません」と田中さんは結んでくださいました。

今月の視点

利用者の日常的な生活の中にあら「食べること」を通じて、日常生活機能の維持や向上、そして健康の安定化を図るという取り組みは、今までにも実践されてきたことと思われます。

しかし、要介護状態にある高齢者は、栄養の吸収力が弱くなり、プランニングを行うなどの取り組みについて、管理栄養士を中心とした従事者の専門性と管理者のリーダーシップの下、施設が一丸となつて取り組まれることを願っています。

(福)麗寿会 ふれあいの森
(企画課)

FAX 0467-54511540

HOT

地域の大人たちが子どもや教師をサポート NPO法人 さがみはら教育応援団（相模原市）

子どもたちへの教育環境は、平成十四年度の学校週五日制や新学習指導要領の導入、そして子どもたちの多様な活動が可能な居場所づくりの推進事業など、様々な改革が進められています。しかし、同時に学習意欲の低下やいじめ、不登校、少年犯罪の増加など、多くの子どもが将来の夢を描けないといった、子どもを取り巻く社会のあり方も多く問われています。



調理師による職業講座。実演紹介をしながら仕事をのお話をされました

こうした中、子どもたちへの教育に地域ぐるみで関わり、学校と行政、地域社会との新しい協働関係を築こうと「さがみはら教育応援団」は発足されました。



調理師による職業講座。実演紹介をしながら仕事をのお話をされました

今回は理事長の吉川和代さんと一緒に、その取り組みについてお話を伺いました。



調理師による職業講座。実演紹介をしながら仕事をのお話をされました

子どもたちの自立と未来のために団体発足のきっかけは、吉川さんが子育て中に、「学校での学びの中に、社会との接点がほとんどない」ことを感じたことからでした。そして、たまたま市内の小学校にゲストティーチャーとして読書



調理師による職業講座。実演紹介をしながら仕事をのお話をされました

翌年には文化庁の助成金を得て落語や生花、茶道などを教える「子ども伝統文化体験教室」（二十二回開催、述べ九十名が参加）を開催しました。そしてNPO法人認可のために団体活動の構築化を図り、本年の二月に認可されました。

具体的な活動は、①学校や子どもの会、公民館などの教育機関に様々なジャンルの講師を紹介・派遣（講師依頼を受け、団体の担当コーディネーターが講師調整を行う）②市民講師の発掘や交流③市民性や職業観の育成など、時代のニーズに合わせた事業を展開しており、現在は二十代から九十年代までの語学や音楽指導、福祉、落語家など多様なジャンルの市民講師が六十四名います。また、講師と学校をつなぐ役目をするコーディネーターを組織内に有して、その育成や研修を行うところも大きな特徴であり、民間としては全国的に珍しいとのことです。

夏休みには市内の小学校でサマースクールを開催する他、県立高校との共催で科学をテーマにした講演会の実施、最近は中学や高校から、職業選択の人生プランのための授業依頼が多いとのことです。

今後はニートやフリーターなどが自分を発見できるプログラムの開発に取り組むことを予定しており、行政の隙間を埋めていく役割を果たしていくことになります。

（企画課）

NPO法人 さがみはら教育応援団
FAX 042-853-8844
URL:<http://members2.jcom.home.ne.jp/sess/>

一社会福祉施設の設計監理一

株式会社 安江設計研究所
YASUE & ASSOCIATES'Inc.

東京都港区高輪2-19-17-808
TEL 03(3449)1771/FAX 03(3449)1772
URL:www.yasue-sekki.co.jp
E-mail : yasue@yasue-sekki.co.jp



知的障害者通所授産施設（海老名市）

新築・増築・改修等お気軽にご相談ください